

主要産地における平成25年産水稲の収穫量及び作柄概況等について 第2報 (10月21日現在)

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部(平成25年10月22日)

全 国 ・ 都道府県	収穫量				作 況			品質概況等		参 考		
	予想収穫量 (主食用)	前年産主食用 収穫量	前年産収穫量 (確定値)との比較		作況指数 25年産	作況指数 24年産	対 差	25年産水稲う るち玄米1等 米比率 (25年9月末)	24年産水稲う るち玄米1等 米比率 (24年9月末)	生産数量目標		
			対 差	対 比						平成25年産	前年産との比較	増減率
全 国	t	t	t	%				%	%	t	t	%
全 国	8,245,000	8,210,000	35,000	100.4	102	102	0	78.7	79.2	7,910,000	▲ 20,000	▲ 0.3
北 海 道	601,300	621,800	△20,500	96.7	105	107	▲ 2	93.5	93.0	572,940	▲ 11,360	▲ 1.9
青 森	272,500	279,800	△7,300	97.4	105	106	▲ 1	94.6	83.2	259,220	▲ 350	▲ 0.1
岩 手	291,000	292,900	△1,900	99.4	103	105	▲ 2	96.8	94.9	286,350	3,880	1.4
宮 城	388,500	387,400	1,100	100.3	104	105	▲ 1	94.4	85.8	380,770	7,210	1.9
秋 田	448,400	450,400	△2,000	99.6	99	100	▲ 1	95.7	87.8	446,430	2,790	0.6
山 形	382,300	380,500	1,800	100.5	101	102	▲ 1	96.6	88.6	374,200	5,210	1.4
福 島	368,600	367,600	1,000	100.3	104	104	0	94.2	86.6	355,860	▲ 4,470	▲ 1.2
茨 城	399,600	399,600	0	100.0	104	103	1	91.6	90.3	348,890	▲ 2,940	▲ 0.8
栃 木	332,500	331,300	1,200	100.4	101	101	0	91.0	94.4	321,550	40	0.0
埼 玉	169,100	168,600	500	100.3	100	99	1	57.8	72.5	156,600	▲ 2,110	▲ 1.3
千 葉	329,100	328,400	700	100.2	104	104	0	93.7	91.9	255,700	▲ 1,000	▲ 0.4
新 潟	595,500	598,700	△3,200	99.5	103	104	▲ 1	78.2	70.0	545,670	▲ 2,910	▲ 0.5
富 山	198,600	194,600	4,000	102.1	102	100	2	68.9	74.6	196,260	▲ 220	▲ 0.1
石 川	130,500	132,000	△1,500	98.9	101	101	0	83.6	84.2	129,400	▲ 1,640	▲ 1.3
福 井	134,900	131,800	3,100	102.4	102	100	2	83.9	88.0	133,360	490	0.4
長 野	212,600	205,000	7,600	103.7	101	98	3	97.6	97.0	204,400	750	0.4
滋 賀	169,300	170,300	△1,000	99.4	102	102	0	63.1	84.0	170,380	▲ 810	▲ 0.5
兵 庫	195,000	188,300	6,700	103.6	103	100	3	42.7	66.1	187,940	▲ 1,530	▲ 0.8
岡 山	174,700	169,200	5,500	103.3	104	100	4	59.1	69.3	166,040	520	0.3
広 島	136,700	137,400	△ 700	99.5	102	103	▲ 1	69.0	85.7	134,400	520	0.4
山 口	113,800	114,100	△ 300	99.7	99	101	▲ 2	46.3	63.5	116,350	1,990	1.7
愛 媛	77,100	74,500	2,600	103.5	102	98	4	24.0	46.0	76,180	▲ 80	▲ 0.1
高 知	58,600	57,500	1,100	101.9	99	98	1	18.1	21.0	51,750	190	0.4
福 岡	188,600	185,700	2,900	101.6	99	98	1	7.0	33.6	191,240	290	0.2
熊 本	195,400	188,400	7,000	103.7	101	97	4	46.6	46.6	197,710	▲ 2,450	▲ 1.2
宮 崎	94,400	89,400	5,000	105.6	102	95	7	65.5	67.8	99,130	▲ 1,810	▲ 1.8
鹿 児 島	114,100	107,600	6,500	106.0	103	96	7	52.0	29.3	115,520	▲ 1,440	▲ 1.2

注1：収穫量、作況については、農林水産省大臣官房統計部の公表資料から抜粋。

注2：水稲うるち玄米1等米比率、生産数量目標については、農林水産省生産局農産部の公表資料から抜粋。

注3：更新箇所については下線で表した。

都道府県	品質概況等 自治体等公表資料（公表資料の抜粋）	備考 全農県本部等の販売力強化に向けた取組み等 （ホームページ公表資料の取り纏め）
北海道	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫は平年並みに終了した（10月18日付） ・10月前半は全道的に気温が高く、日照時間は少なかつた（10月18日付） ・アカヒゲホソムドリカメシカメシの発生量は平年並み（8月2日付） ・9月の気温は高く日照時間は平年並～少なかつた（10月3日付） 	<ul style="list-style-type: none"> ・「2年続けて平均精米タンパク率が基準値に達しなければ、翌年は栽培できない」等、栽培、生産、出荷までの独自の厳しいルールを生産者同士で取り決めるなど全道統一のルール作りでお米の品質をチームで守る
青森	<ul style="list-style-type: none"> ・10月10日現在の稲刈り進捗状況は県全体で95%、平年に比べて13ポイント高（10月11日付） ・10月上旬の平均気温はかなり高く、日照時間は少～かなり少なかつた（10月11日付） ・9月中旬の穂いもち、稲こじの発生量はやや多かつた（9月20日付） ・9月の気温は概ね平年並～高く、日照時間は上旬は少なく、中下旬は多かつた 	<ul style="list-style-type: none"> ・県産銘柄米の需要拡大と定着化およびパールライスブランドを基本とした精米事業の拡大と地産地消の強化 ・産地精米等の取扱強化による精米販売数量の拡大
岩手	<ul style="list-style-type: none"> ・10月15日現在の稲刈り進捗状況は県全体で95%（10月17日付） ・10月上旬の平均気温はかなり高く、日照時間はかなり少なかつた（10月11日付） ・9月の穂いもちの発生は過去10年間で2番目の多さ、カメムシ類の発生は平年並（10月4日付） ・7月の大雨による水稲の被害面積合計は402ha ・9月の気温は概ね平年並～高く、日照時間は上旬は少なく、中下旬は多かつた 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心（農薬使用回数は通常の4分の1）、食味値での選抜、粒の大きさ（玄米粒2ミリ以上）こだわったひとめぼれを「いわて純情米プレミアム ひとめぼれ」として販売 ・担い手対応の充実に向けた、いわて純情米広域集出荷センターの稼働による集荷拡大
宮城	<ul style="list-style-type: none"> ・10月8日現在の稲刈り進捗状況は県全体で90%程度（10月9日付） ・10月上旬の平均気温はかなり高く、日照時間は少～（沿岸部）かなり少なかつた（10月11日付） ・多くの圃場では既に刈取適期に達しているため、刈遅れによる品質低下を防ぐため速やかに刈取るよう指導（10月1日現在） ・8月中旬以降カメムシ類の水田侵入は多くなると推測（7月31日付） ・9月の平均気温は高く、日照時間は多～かなり多かつた（10月1日付） 	<ul style="list-style-type: none"> ・高品質、良食味米の取り組みとして「適期防除の実施」「適期刈取の推進」「基準を厳守した乾燥調整」「異品種混入のない米づくり」を実施中 ・米穀物流改革推進強化に向けた新連合倉庫の設置による集荷拡大
秋田	<ul style="list-style-type: none"> ・鹿角地域の1等米比率は93.8%、等級低下の主原因は斑点米と胴割粒（10月18日付） ・山本、由利、平鹿、雄勝地域の刈り取りはほぼ終了（10月18日付） ・10月上旬の平均気温はかなり高く、日照時間は少～平年並み（10月11日付） ・仙北地域の1等米比率は99.4%（10月4日付） ・9月のカメムシ類の発生量は多いと予報（8月29日付） ・9月の気温は高く、日照時間は平年並～かなり多かつた（10月1日付） ・7～9月の大雨・台風による水稲・大豆等圃場の被害面積合計は2,611ha 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な需要先に対応できる「あきたこまち」をはじめとした商品ラインナップの整備と、環境に配慮した低コスト・省力化生産が可能な「あきた00らいす」の生産拡大に取組み、販売・流通体制を広域的に展開しながら販路拡大と流通量確保を推進 ・米穀の播種前・収穫前契約（三者契約・複数年契約含む）の拡大
山形	<ul style="list-style-type: none"> ・10月上旬の平均気温は高く、日照時間は少なかつた（10月11日付） ・出穂後はカメムシ類の水田内への侵入や加害活動が活発になると推測（7月25日付） ・9月の気温は高く、日照時間はかなり多かつた（10月1日付） ・7月の大雨による水稲・大豆等圃場の被害面積合計は5,472ha 	<ul style="list-style-type: none"> ・「つや姫」のトップブランド定着に向けた取扱数量拡大
福島	<ul style="list-style-type: none"> ・9月末の稲刈り進捗状況は32%、斑点米カメムシ類の被害が浜通りの一部や山間部で見られる（10月11日付） ・10月上旬の平均気温はかなり高く、日照時間は全津で平年並み～多く、中・浜通りは少～かなり少ない（10月11日付） ・9月の気温は高く、日照時間はかなり多かつた（10月1日付） 	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者の安全・安心の要望に応えるため、栽培履歴が確認された「JA米」の確立に取り組む ・生産者にとって作りやすい品種特性（耐倒伏性、品種収量安定性）の啓蒙を通じた米の県オリジナル品種「天のつぶ」の作付拡大
茨城	<ul style="list-style-type: none"> ・コシヒカリ玄米の外観は、基部や背部に僅かに白濁したものが多く混入していることから、全体に白度がやや高めである。全体的に僅かに高温障害の影響を受けているように感じられる。胴割粒の混入は全体的には少ないが、着色粒の混入は平年より少ないが、茶米や発芽粒の混入が散見される。2等以下については、軽度白濁したものが多くことから形質や充実不足によるものが多いように感じられた（精米工） ・9月の気温は高く日照時間は平年並～多かつた 	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者の安全・安心へのニーズに応え、JA米や契約生産・契約販売を拡大 ・「ふくまる」「はるみ」の販売に連動した品種作付提案
栃木	<ul style="list-style-type: none"> ・今年普通栽培でも出穂期以降高温で経過し、胴割れが発生しやすい気温条件。登熟期に断続的に降雨があり、立ち状態での胴割れ発生への心配も（10月10日付） ・10月上旬の平均気温はかなり高く、日照時間は少～かなり少なかつた（10月11日付） ・イネ絹葉枯病の発生は非常に多かつた（9月20日付） ・9月の気温は全般的に高く、日照時間も全般的にかなり多かつた（10月1日付） 	<ul style="list-style-type: none"> ・播種前、収穫前契約による栃木米の安定的取引の拡充と集荷拡大
埼玉	<ul style="list-style-type: none"> ・10月上旬の平均気温はかなり高く、日照時間は少～かなり少なかつた（10月11日付） (1) 早期栽培（5月1日植「コシヒカリ」）高温登熟による千粒重の低下、外観品質の低下を懸念 (2) 早植栽培（5月21日植「彩のかがやき」）高温登熟による千粒重の低下、白未熟粒の多発懸念（9月2日付） ・ヒメトビウカの大発生によるイネ絹葉枯病が多発（9月26日付） ・9月上中旬の気温は平年並～高く、下旬は高かつた。日照時間は上旬で少～平年並、中下旬では多～かなり多かつた 	<ul style="list-style-type: none"> ・「彩のかがやき」「コシヒカリ」を中心に各種媒体やイベントなどで積極的にPRし、埼玉県産米のブランド化と消費拡大を図る ・米の収穫前契約、契約栽培的取引の取組強化
千葉	<ul style="list-style-type: none"> ・コシヒカリ玄米の品位は「ふさおとめ」より、未熟粒、胴割粒の混入が多い。籾の混入、着色粒はカメムシによるものが見られるが、概ね普通。精米白度は「ふさおとめ」「ふさこがね」より上がりやすい。精米にするとき若干心白、腹白粒が目立つが概ね普通（精米工） ・斑点米カメムシ類の発生量は平年並の予報（8月10日現在） 	<ul style="list-style-type: none"> ・良食味の早場米産地として、新米の香りを全国に先駆けて食卓に届ける役割を目指し、生産履歴の記載により安全・安心を確保と安定した品質で良食味の「千葉菜の花米」の生産に取り組む ・米穀卸・実需者の動向調査をふまえた収穫前契約の促進
新潟	<ul style="list-style-type: none"> ・コシヒカリの検査結果では、胴割れ、青未熟、肌ずれ等による格落ちが見られる（9月20日付） ・コシヒカリ玄米の外観については、肌ずれが少なく、光沢もある。形質については、2等では青未熟粒がやや目立つが、1等では少なく、カメムシによる着色粒も少ない。胴割粒は地域によるバラツキが見られる（精米工） ・倒伏は、近年に比べて多く、程度も大きくなっている ・県内15か所の調査地点における9月10日までの地力窒素発現量は平年並に推移しており、8月8日からの増加量も同等 ・本年はコシヒカリの登熟期が高温で経過したため刈遅れによる基部未熟粒の増加の懸念（すべて9月18日付） ・9月の気温は上旬は低く、中下旬は高かつた。日照時間は上旬は少なく、中下旬は全般的に多かつた 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産者、関係機関と一体となって、高品質・良食味米の安定生産と環境にやさしい米づくりに力をいれ、おいしさ、安全・安心、環境保全日本一の「新潟米」を目指す ・早期の需要確保と卸・実需者との結び付き強化に向けた播種前・収穫前契約の推進
富山	<ul style="list-style-type: none"> ・9月の穂いもちの発生量は少ないが、カメムシ類は多い予報（8月30日付） ・9月の気温は平年並み、日照時間はかなり多かつた（10月8日付） 	<ul style="list-style-type: none"> ・富山米ブランドの確立に向けた県行政とのタイアップによる首都圏での販売促進キャンペーンの実施、産地精米の拡大
石川	<ul style="list-style-type: none"> ・8月の穂いもちの発生量は少ないが、カメムシ類は多い予報（8月1日付） ・9月の気温は平年並、日照時間は多～かなり多かつた 	<ul style="list-style-type: none"> ・高品質で安心できる石川米のために「種子は契約圃場で計画的に生産」「品質と食味の向上、安全安心への生産指導を徹底」「刈取後の管理も徹底し、高品質の米に調整」「農産物検査を適正に実施」「品質維持のため、倉庫での保管管理を徹底」「輸送段階での管理の徹底」「卸や消費者の意見を産地へ届ける」 ・石川県産米の需要定着に向けた播種前・収穫前契約の拡大
福井	<ul style="list-style-type: none"> (コシヒカリ) 秋雨前線による大雨で収穫直前の倒伏が目立つ状況、その後の大雨で倒伏が一層進展。穂発芽、未熟粒の発生懸念（ハナエチゼン）品質は平年より良い見込。2等以下の格付付理由はカメムシ類による被害粒が多 ・9月の気温は平年並、日照時間は多～かなり多かつた（10月9日付） 	<ul style="list-style-type: none"> ・福井米の安定品質確保のために「食味評価特A評価定着のための技術指導の推進」「県下全域でエコファーマーを推進」「適期田植えと直播栽培の徹底」「土づくり適切な水管理の徹底」「適正作付比率の推進」

	品質概況等	備考
長野	<ul style="list-style-type: none"> ・斑点米カメムシ類の発生量南信及び中信地方の一部で多かった（9月9日付） ・9月の気温は平年並、日照時間はかなり多かった（10月1日付） 	<ul style="list-style-type: none"> ・県内取引先との連携を強化した長野県内シェアの拡大
滋賀	<ul style="list-style-type: none"> ・カメムシ類の発生量は平年並みの予報（7月24日付） ・9月の気温は上旬は低～かなり低く、中下旬は平年並～高かった。日照時間は上旬は少～かなり少なく、中下旬はかなり多かった 	<ul style="list-style-type: none"> ・より消費者ニーズに合った、安全で安心なおいしい近江米づくりをめざして、滋賀のJA米の確立や環境にこだわった農業の推進を図るとともに、安定的な取り引きの拡大に関係機関一体となって取り組む ・実需者と結び付いた米の播種前・収穫前契約販売の強化
兵庫	<ul style="list-style-type: none"> ・9月のカメムシ類の発生量は多いと予報（8月20日付） ・10月のヒメトビウカの発生量は多いと予報（10月4日付） 	<ul style="list-style-type: none"> ・良質米づくりの重点目標（適期刈取の徹底、玄米水分14.5～15%に統一、量目の統一、着色粒・胸割粒・乳白粒の発生防止の徹底、粉・麦・草種・石・土・砂など異物混入防止、乾燥調製施設の品質事故防止の徹底）を掲げ、その指導を実施
岡山	<ul style="list-style-type: none"> ・10月のトビウカの発生量はやや多いと予報（10月2日付） ・9月の気温は平年並、日照時間は多～かなり多かった（10月8日付） 	<ul style="list-style-type: none"> ・JAをコンピューターで結んだ「JA良質米情報ネットワークシステム」を活用し、各JA管内で集荷されたお米の中から、品質・食味ともに優れた地域で「うまい米」を厳選
広島	<ul style="list-style-type: none"> ・10月上旬の平均気温は平年よりかなり高く、日照時間は平年並み～少なかった（10月11日付） ・9月の気温は上旬はかなり低く、中下旬は高かった ・日照時間は上旬は少なく、中下旬はかなり多かった 	<ul style="list-style-type: none"> ・精米販売の拡大対策として、JAグループを挙げた米頒布会の取り組みの実施
山口	<ul style="list-style-type: none"> ・8月末からの長雨と倒伏により収穫期が7～10日程度遅れたものが多く、またくず米が多く、上位等級比率も昨年より低く推移（10月2日付） ・9月の気温は高く、日照時間は多かった 	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫前契約、用途別結び付き玄米販売の拡大
愛媛	<ul style="list-style-type: none"> ・アカスジカスミカメの誘殺数は平年並み（10月3日付） 	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者ニーズと適地適作を基本として、「売れる米づくり」とブランド化を推進 ・行政・JAと連携した多収性新品種「みつひかり」および高温耐性品種「こまる」の実証圃試験ならびに省力・低コスト技術（鉄コーティング湛水直播栽培）の普及試験の実施
高知	<ul style="list-style-type: none"> ・コシヒカリ玄米の外観は、7月の出回り初期のものには青未熟粒の混入が多く見られた。9月になってからのものは、青未熟粒は減ったが、基部未熟粒を主体とした白未熟粒の混入が見られた。本年は、平年より梅雨入り梅雨明けと5・10日程度早く、梅雨の間の降水量は平年並みよりやや多かったことから、かなり順調な生育であった。梅雨明け以降は降水量が少なかったことから生育が進み、収穫期が早まり、青未熟粒などの混入が増えた。これまでの2等以下への落等の理由は、整粒不足・着色粒の混入などと思われる。なお、1等比率は低いものの、近年の作柄と比較すると、粒に光沢もあり、高温障害の影響が少ないことから、玄米の見目はきれいである（精米工） ・高温と水不足による枯れ熱れが心配されていたが普通期稲の生育は順調 ・普通期稲の穂もちの発生量は平年並、イネクロカメムシの発生量は少ない（10月2日付） 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別栽培米や産地銘柄米の取組強化および良食味米をはじめとする高品質米生産の取り組み
福岡	<ul style="list-style-type: none"> ・中・晩生品種でトビウカによる「坪枯れ」が急激に拡大（9月25日付） ・9月の気温は平年並～高く、日照時間は多～かなり多かった 	<ul style="list-style-type: none"> ・地産地消・食育の取組強化に向けた学校給食米の一元供給および福岡県産米の新品種「元気つくし」の作付拡大
熊本	<ul style="list-style-type: none"> ・9月中旬以降トビウカの発生量は多い予報（9月10日付） ・9月において中生品種でトビウカによる「坪枯れ」を確認（9月30日付） ・9月の気温は平年並～高く、日照時間は平年並～かなり多かった 	<ul style="list-style-type: none"> ・播種前・収穫前契約を基本とし実需者を特定した契約をすすめ、安定した販路確保を目指す。新主体の玄米販売から、実需者との結び付きを意識した生産（川上）から精米販売（川下）までの一貫した事業展開により販売力を強化
宮崎		<ul style="list-style-type: none"> ・消費者や取引先の求める「安全・安心」に応える為に、生産履歴の記録に取組み、更には残留農薬検査も行う
鹿児島	<ul style="list-style-type: none"> ・コシヒカリ玄米の外観は、出回り初期のものには青未熟粒の混入が多かったが8月中旬以降入手したサンプルでの混入は少なくなっていた。また、白未熟粒の混入は少なく、見目はかなり良い。着色粒はカメムシによるものが見られ、落等の要因になったものもあるが、体的には少ない。登熟期（7月）は、気温がやや高めに推移し、降水量が少なく、日照時間が長かったことから、平年より早い出回りとなった。産地によっては、高温障害の影響によると思われる白未熟粒の混入が見られるが、混入は僅かである（精米工） ・9月のトビウカ、カメムシ類の発生量は多～やや多い予報（8月29日付） ・9月の気温は高～かなり高く、日照時間は多～かなり多かった 	<ul style="list-style-type: none"> ・「担い手農家の経営規模に応じた事業提案力や支援対応力の強化」「消費者に届ける、安全・安心な農産物とコミュニケーション」等の視点から「生産基盤の維持強化につながる事業構築と農家所得の向上につながる販売機能強化およびコスト削減への積極的な取り組み」等を基本戦略として展開

注1：自治体等公表資料については地方自治体及び出先機関等が公表している資料から抜粋。

注2：備考欄のイタリック体はホクレン農業協同組合及び全農本部等のホームページで公表されている資料を基に取り纏め。ゴシック体は全国農業協同組合連合会のホームページで公表されている資料から抜粋。

注3：（精米工）とあるものは、一般社団法人日本精米工業会が提供している「米質概況情報」から抜粋。但し「米質概況情報」は一般社団法人日本精米工業会が正会員精米工場から得たサンプル（玄米）を測定したものであり、母集団として産地の評価を決めるものではない。

注4：更新箇所については下線で表した。

参考資料

平成25年度水稲の作付面積及び9月15日現在における作柄概況(農林水産省)、平成24年度水陸稲の収穫量(農林水産省)、平成25年度米の農産物検査結果(速報値/平成25年9月30日現在)(農林水産省)、平成24年度米の農産物検査結果(速報値/平成24年9月30日現在)(農林水産省)、平成25年度米の都道府県別の生産数量目標について(農林水産省)、一般社団法人日本精米工業会「平成25年度米質概況情報」(8/22、8/28、9/20、10/21)

農作物の生育状況(10月15日現在)(北海道)、病害虫発生予察情報第15号(9月13日)(北海道病害虫防除所)、10月10日現在稲刈進捗状況(10月11日)(青森県)、平成25年度水稲病害虫発生状況第3号(9月中旬)(9月20日)(青森県病害虫防除所)、青森県農業気象速報第34巻25~27号(青森県、青森地方気象台)、水稲の刈取り状況(10月15日現在概況速報)について(岩手県)、平成25年度9月の発生現況情報水稲編No.6(岩手県病害虫防除所)、岩手県農業気象速報第34巻25~28号(岩手県、盛岡地方気象台)、平成25年7月26日から28日の大雨・洪水に係る被害状況(岩手県)、平成25年度水稲の刈取状況について(10月8日現在)(宮城県)、平成25年度発生予察情報注意報第3号(7月31日)(宮城県病害虫防除所)、宮城県農業気象速報第34巻28号(宮城県、仙台管区気象台)、平成25年度生育状況報告10月18日号(秋田県)、農作物病害虫発生予察情報発生予報第6号(9月予報)(秋田県病害虫防除所)、秋田県農業気象速報第34巻25~28号(秋田県、秋田地方気象台)、平成25年7月12日からの大雨による被害状況等について(秋田県)、平成25年7月27日からの大雨による被害状況等について(秋田県)、平成25年8月9日からの大雨による被害状況等について(秋田県)、平成25年度台風18号による被害状況等について(秋田県)、平成25年度農作物有害動物発生予察情報注意報第2号(7月25日)(山形県病害虫防除所)、山形県農業気象速報第4巻25~28号(山形県、山形地方気象台)、7月18日からの大雨に係る被害状況について(第28報)(山形県)、主要な農作物の生育情報第7号(福島県)、福島県農業気象速報第34巻25~28号(福島県、福島地方気象台)、病害虫発生予報10月号(9月30日)(茨城県病害虫防除所、茨城県植物防疫協会)、茨城県農業気象速報第34巻25~27号(茨城県、水戸地方気象台)、平成25年度水稲生育診断予測事業速報No.10(10月10日現在)(栃木県)、防疫ニュース(速報No.19)(栃木県農業環境指導センター)、栃木県の平成25年9月の気象(速報)(10月1日)(宇都宮地方気象台)、栃木県農業気象速報第34巻28号(栃木県、宇都宮地方気象台)、平成25年度水稲の生育概況VOL.4(埼玉県農林総合研究センター水田農業研究所)、病害虫防除情報(9月26日)(埼玉県病害虫防除所)、埼玉県農業気象速報第36巻25~27号(埼玉県、熊谷地方気象台)、平成25年度病害虫発生予察注意報第1号(7月10日)(千葉県農林総合研究センター長)、水稲の生育状況と今後の管理対策(第11号)(9月18日)(新潟県)、新潟県の気象・地震概況平成25年9月(簡易版)(新潟地方気象台)、稲作管理情報10(柏崎農業改良普及センター)、病害虫発生予報第6号(富山県農林水産総合技術センター所長)、富山県の気象・地震概況平成25年9月(簡易版)(富山地方気象台)、病害虫発生予報第5号(石川県農林総合研究センター)、石川県の気象・地震概況平成25年9月(簡易版)(金沢地方気象台)、今月の農業技術(水稲10月)(福井県ふくいアグリネット)、福井県の気象・地震概況平成25年9月(簡易版)(福井地方気象台)、8月下旬の水稲巡回調査結果の概要等について(9月9日)(長野県病害虫防除所)、平成25年9月の長野県内の天候(長野地方気象台)、平成25年度防除情報第3号(滋賀県病害虫防除所)、滋賀県農業気象速報(滋賀県、彦根地方気象台)、平成25年度病害虫発生予察予報第4号・第5号(兵庫県病害虫防除所長)、平成25年度病害虫発生予報第7号(岡山県)、平成25年9月の天気概況(岡山地方気象台)、広島県農業気象速報第33巻25~28号(広島県、広島地方気象台)、平成25年度農作物病害虫発生予察9月月報(山口県病害虫防除所)、山口県気象月報平成25年9月(下関地方気象台)、2013年(平成25年)調査データ「水稲害虫」(10月3日更新)(愛媛県病害虫防除所)、病害虫発生予察情報について(高知県病害虫防除所長)、平成25年度病害虫発生予察警報第1号について(福岡県病害虫防除所長)、福岡県気象月報(福岡管区気象台)、平成25年度病害虫発生予察注意報第2号(熊本県病害虫防除所)、平成25年度病害虫発生予報第7号(10月予報)(熊本県病害虫防除所)、熊本県気象月報(熊本地方気象台)、平成25年度病害虫発生予察情報について(8月29日)(鹿児島県病害虫防除所長)、鹿児島県気象月報(鹿児島地方気象台)

北海道のお米(ホクレン農業協同組合連合会ホームページ)、JA全農あおもりインフォメーション(JA全農あおもりホームページ)、いわて純情プレミアム(JA全農いわてホームページ)、宮城米安定生産、高品質・良食味米生産の取り組み(JA全農みやぎホームページ)、全農あきたについて(JA全農あきたホームページ)、事業紹介(JA全農福島ホームページ)、茨城のお米(JA全農いばらきホームページ)、JA全農さいたまについて(JA全農さいたまホームページ)、事業概要(JA全農ちばホームページ)、事業概要(JA全農いがたホームページ)、石川の米・麦・大豆(JA全農いしかわホームページ)、福井のお米(JA福井経済連ホームページ)、事業概要(JA全農しがホームページ)、兵庫のお米(JA全農兵庫ホームページ)、岡山の極み(JA全農岡山県本部ホームページ)、JA全農えひめとは(JA全農えひめホームページ)、JA熊本経済連部門紹介米穀課(JA熊本県経済連ホームページ)、事業概要(JA宮崎経済連ホームページ)、平成25年度事業計画書(JA鹿児島県経済連ホームページ)、都府県本部による国産農畜産物の販売力強化に向けた取り組み(全国農業協同組合連合会ホームページ)